

Full Power!
The Tale of the Treasure
 Tracing Beauty Through Osaka City Museum of Fine Arts

Special Exhibition Commemorating
 the 90th Anniversary of the Museum's Opening

開館90周年
記念特別展
全力名宝物語

大阪市美とたどる美のエピソード



フルパワーで
 名品紹介!



2026.4.25 [土] - **6.21** [日]

【開館時間】午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
 【休館日】月曜日（ただし、5月4日は開館）※会期中、一部の作品の展示替え、巻替えを行います。
 【主催】大阪市立美術館、日本経済新聞社 【協賛】能登印刷
 【観覧料（税込）】一般：1,800円（1,600円） 高大生：1,200円（1,000円）

※（ ）内は、前売及び20名以上の団体料金 ※中学生以下、90歳以上、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料（要証明）。※本展は大阪市内在住の65歳以上90歳未満の方を一般料金が必要です。そのほか、詳細は観覧会公式サイト等をご覧ください。

大阪市立美術館 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82（天王寺公園内）
 【お問合せ】大阪市総合コールセンター TEL 06-4301-7285（8:00～21:00、年中無休）
<https://www.osaka-art-museum.jp>
 (上)菅原秀吉像(部分) 慶長5年(1600) 大阪市立美術館蔵
 (左)青銅鍍金銀羽人(部分) 中国・後漢時代 大阪市立美術館蔵

《 報道関係者お問い合わせ先 》

「全力！名宝物語 一大阪市美とたどる美のエピソード」 広報事務局（株式会社TMオフィス内）
 担当：馬場・永井・西坂
 TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）
 テレフォンセンター：050-1807-2919 E-MAIL：meiyou@tm-office.co.jp

展覧会概要

昭和11年（1936）に開館した大阪市立美術館は、令和8年（2026）に、開館90周年を迎えます。

日本の公立美術館の中で三番目に古い伝統を持つ当館は、
大規模改修工事を経て、現在も大阪の地に確固として息づいています。

歴史は、保存され、未来の礎となります。

そして、「物語」へと展開して、形を変えて語り継がれていきます。

一方、美術は、その「物語」自体を描くほか、時代や人々の息吹を視覚的に伝承します。

美術館の歴史は、その根幹を成す「美術品」自体が雄弁に語ります。

本展は、開館90周年を記念して、館蔵・寄託の名宝の数々を中心に展示し、

美術館をめぐる紡がれた物語、美術に託された物語、

そして美術の成立と未来への展望の物語をご紹介します。



開館当初の大阪市立美術館 昭和11年（1936）

ことはじめ — 名宝で語る

1936年に開館した大阪市立美術館は、東洋美術の殿堂として世界に知られています。その所蔵品の多くは、元来、財界・文化人のコレクションで、それを譲り受けたものです。

本章では、美術館のアイデンティティとも呼ぶべき各コレクションの代表作をご覧いただき、時に力強く、時に繊細に人々と共に歩み続けた美術館の歴史物語を『全力』でご紹介します。



ばんしゅう

晩秋 上村松園 筆 昭和18年（1943）

大阪市立美術館蔵 住友コレクション

当館への作品寄贈を前提に住友家が全費用を負担して開催された「関西邦画展覧会」への出品作。女性として初の文化勲章を受章した上村松園によって、静謐で格調高い画風で障子を繕う女性が描かれる。

ぎん と きんすかしぼり ほうそうげもんきょうぼこ

銀鍍金透彫 宝相華文経箱

南北朝時代・14世紀 大阪市立美術館蔵

田万コレクション

市民派弁護士、衆議院議員として活躍した田万清臣氏と妻の明子氏が蒐集し、大阪市に寄贈した作品のうちの一つ。箱全体を透かし彫りによる流麗かつ立体的な宝相華文で埋め尽くし、豊潤な仏教世界を展開する。



物語の美術 — みせる物語

大阪市立美術館には、所蔵品の他に社寺、個人の方々からの寄託品が数多く保管されています。本章からは、寄託品も含めた名宝の数々が登場します。

美術は、物語と共に物事を記録し、人々に伝える手段として発達しました。本章では、仏画から世俗画、さらには工芸品までの幅広い「物語の美術」を『全力』でご紹介します。近年国宝に指定された通称「目無経」は、内容、背景、伝来のいずれにも物語が込められる総合的「物語の美術」です。



重要文化財 ^{ぶつ ねはんず} 仏涅槃図 鎌倉～南北朝時代・14世紀 長寶寺蔵
【前期展示】

インドのクシナガラにおける釈迦の涅槃の情景を描く。釈迦は沙羅双樹の下で弟子や菩薩、動物等に囲まれ静かに横たわる。上空から雲を走らせ降り来るのは釈迦の母・摩耶夫人の一行。周囲の人々や動物は全身全霊で悲哀を表している。



^{ひゃっき やびょう え まき} 百鬼夜行絵巻 (部分) 原在中筆 江戸時代・18～19世紀 大阪市立美術館蔵 望月信成氏寄贈
※会期中、巻替えあり

妖怪、鬼神、付喪神などが暗闇を闊歩する様子を描く。実際に妖怪たちが何をしているかストーリーは不明ながら、ユーモラスで生き生きとした描写は鑑賞者を惹きつける。伝土佐光信筆の真珠庵本を原在中が写した作品。



重要文化財 ^{めいひしゅつさいず} 明妃出塞図 (部分)
^{きゅうそねん} 宮素然筆 中国・金時代・12世紀初
大阪市立美術館蔵 阿部コレクション
【後期展示】

中国・前漢時代の悲話。明妃(王昭君)は、画工に醜く描かれたために、異民族の匈奴に嫁がされた。白描の人物描写によって風が吹きすさぶ厳しい北方の環境が示され、見事に物語全体の雰囲気醸し出されている。

^{ものがたりした え りょうしこんごうみやうきょう} ^{めなしきょう} 国宝 物語下絵料紙金光明経 (目無経) 卷第二 (部分)
鎌倉時代・建久3年(1192)頃 大阪市立美術館蔵 武藤経三氏遺贈 【前期展示】

後白河法皇の崩御に伴い、法皇企画のもと制作途中であった物語絵巻の下絵を菩提弔いのための写経の料紙とした。下絵のため、人物には目鼻がほぼ描かれぬ。物語は判然としないが、蓬髪(ほうまつ)の異形も認められる。



注文×伝来 — 美術成立の裏側 I

美術制作の背景にある物語を『全力』でご紹介します。制作には、現在と変わらざる発注者と目的（用途）があり、そして伝来に依じて、時として用途も変化していきます。実用の他に、信仰、鑑賞、寄進など各種の用途があります。発注者の名前と共にそれが明記された作品も存在します。「豊臣秀吉像」等の肖像画はその典型例でしょう。本章では、古代から近代までの作品に刻まれる先人たちの息吹きを浮き彫りにします。



とよとみひでよしろう いきょうえいてつ
豊臣秀吉像 惟杏永哲 賛 桃山時代・慶長5年（1600）
 大阪市立美術館蔵 古賀勝夫氏寄贈

「豊国大明神尊像」と題されており、平和祈願の目的によって神格化された秀吉像が描かれたことが知られる。通常とは異なる縮緬ちりめんのような絹が用いられており、秀吉の遺品が利用された可能性が指摘されている。

よざくら つねとみ
夜桜（左隻） 北野恒富 筆
 昭和18年（1943）
 大阪市立美術館蔵
 住友コレクション【前期展示】

上村松園の晩秋と同じく「関西邦画展覧会」への出品作。大阪を拠点に活躍した北野恒富は、美人画制作によって一世を風靡した。京の舞妓がいなくなるとの噂を聞き、惜別の思いを込めて描かれた。



せい か ふじん ずほう へい けいとくちんよう
青花 婦人図方瓶 景德鎮窯
 中国・清時代・17世紀
 大阪市立美術館蔵

ガラス製のワイン瓶を模倣した形状の方瓶。1684年～1691年にバタヴィア（現インドネシア・ジャカルタ）に駐在したVOC総督Pieter Van Hoorn（ピーター・ヴァン・ホーン）により、私的な注文として作られた。16～17世紀の大航海時代の末期の時代性を反映した作品。



かん げつ ためきす
寒月狸図 森徹山 筆 江戸時代・19世紀
 大阪市立美術館蔵【後期展示】

大阪の代表的豪商・加島屋久右衛門家に伝来した。森徹山は、森狙仙の甥にあたり、円山応挙門下の十哲に数えられる。森派特有の柔らかな毛描きが認められ、静寂な空間で、ふと月を見上げる狸が描写される。



素材×技法 — 美術成立の裏側Ⅱ



まき え こ いぬがたこうごう

蒔絵小犬形香合 明治時代・19世紀

大阪市立美術館蔵 カザールコレクション

蒔絵の技法が用いられる漆工品。毛描きがなされ、ずんぐりとした身体の小犬が愛らしく坐るも、目には悲哀がこもる。旧所蔵者のカザール氏は香合として蒐集したが、ボンボニエールのような小物入れとして機能した可能性がある。

彫刻・工芸史は、いわば技術開発のプロジェクトストーリーです。各種の素材を駆使すべく得た技法は、とある時代に突如として最高峰の水準に達したかの印象を与えますが、そこに至るまでの道のりには人々の奮闘の過程があります。陶磁器の焼成・施釉、漆器の螺鈿・蒔絵、金工の鑄造、鍍銀など。そして、「橋姫蒔絵硯箱」に代表されるように、一つの作品には複数の技術が発揮されます。本章では各種の技法の足跡を『全力』でご紹介します。



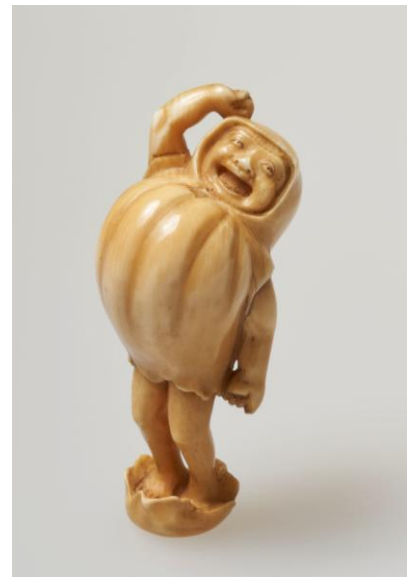
し きょうがたすいてき

鴟鵂形水滴

中国・六朝時代・3~5世紀

大阪市立美術館蔵 山口コレクション

鑄造によって制作された古代中国の金属器。フクロウの類の鳥をモデルとしている。顔、目鼻立ちが大きく、ユーモラスな表情をするが、フクロウは古の中国では霊鳥の一種と捉えられた。頭上の穴にスポイト状の滴管を挿入して用いられた。



だる まげ ちようねつけ

達磨牙彫根付 銘「宗明」

明治時代・19世紀 大阪市立美術館蔵

カザールコレクション

象牙を彫刻して制作された根付。大きく伸びをした達磨が蓮華の上に立っており、仏教の蓮華化生のパロディとも捉えられている。描写が細かく、ユーモラスな姿態と表情が観者を喜ばす。縁起物として身につけられたのであろう。

そうめい



はしひめまき え すずりぼこ

橋姫蒔絵硯箱 江戸時代・18~19世紀

大阪市立美術館蔵 カザールコレクション

研出蒔絵、高蒔絵などによって『源氏物語』（蓋表）と『伊勢物語』（蓋裏）の内容の一節を描写する。蓋表の象牙製の水車は、水銀が上方から流れ出てくるくと回転する。各種の技法が駆使された優品。

研究×修復 — 未来に繋ぐ物語



美術館と所蔵・寄託品を先人から継承し、後世に渡していくためには、美術品の修復と研究が欠かせません。本章では、修復の実例と学芸員の研究成果を紹介し、未来へ繋ぐ物語を『全力』で紡ぎます。

せいどう ごししょが ぞうきょう
重要美術品 青銅 伍子胥画像鏡
 中国・後漢末～三国時代・3世紀
 大阪市立美術館蔵 山口コレクション

2023年度に修復が行われた銅鏡。鏡全体が、大きく3つに割れており、過去にも修復がなされたが、改めて強化・補強、過去の修理痕の除去等を行った。伍子胥は、紀元前6～5世紀の人物。父と兄の敵討ちの説話が古来知られる。



たけふじず
竹藤図（右隻） 長谷川等二筆 江戸時代・17世紀
 大阪市立美術館蔵 田万コレクション【後期展示】

2023年度～2024年度に修復が行われた屏風。虫害による本紙の欠失、上舐め、下地の木材の反りや乾燥による本紙の隅皺、墨・絵具層の剥離剥落などの修復がなされた。筆者については不詳であるが、抒情的な感性が発揮されている。

〈開催概要〉

開館90周年記念特別展 「全力！名宝物語 一大阪市美とたどる美のエピソード」

会 期：2026年4月25日（土）～6月21日（日）

展示替え、巻替え有り

前期：4月25日（土）～5月24日（日）

後期：5月26日（火）～6月21日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで

会 場：大阪市立美術館（天王寺公園内）

休 館 日：月曜日 ※5月4日は開館

主 催：大阪市立美術館、日本経済新聞社

協 賛：能登印刷

作品件数：約170件

観 覧 料：一般 1,800円（1,600円） 高大生 1,200円（1,000円）

※（）内は前売りおよび20名以上の団体料金

※前売券の発売期間は2026年2月25日（水）から4月24日（金）まで

※中学生以下、90歳以上、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料（要証明）。

※障がい者手帳等は日本の法律に基づき交付されたものに限る。

※大阪市内在住の65歳以上90歳未満の方も一般料金が必要。

おかげさまで90周年！

90歳以上の方は無料で観覧いただけます。

※要証明書



達磨牙彫根付 銘「宗明」
明治時代・19世紀 大阪市立美術館蔵
カザールコレクション

〈相互割引〉

ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト（3月20日（金・祝）～6月14日（日）あべのハルカス美術館）のチケット（半券可）を提示で本展の当日券を100円引きでご購入いただけます。（1枚につきお一人様1回限り有効、他の割引券との併用不可。）

報道関係者お問い合わせ先

「全力！名宝物語 一大阪市美とたどる美のエピソード」広報事務局（株式会社TMオフィス内）

担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 E-MAIL：meihou@tm-office.co.jp